

宮古発

さんりく元気ラジオ！

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

5月6日の「さんりく元気ラジオ！」では、みやこハーバーラジオの箱石文彦さんが、東日本大震災で被災し再建された宮古市のライブハウス「クラブカウンターアクション」で5月1日と2日に開催されたライブについて伝えてくれました。ライブを行ったのは東京スカパラダイスオーケストラで題して『スカパラ‘15春のみちのく7本勝負』。ライブのほか小学校のスクールバンドとの交流会も行われました。交流会を楽しんだ子供たちは「演奏がすごく上手くてびっくりした。今日教えてもらったことを生かして今後も頑張っていきたい」と興奮冷めやらぬ様子だったとのことでした。(5/6)

山田発

「新生やまだ商店街」

山田町の津波で被災した商店が集約され、商店街に生まれ変わることになりました。山田町中央町の国道沿いに造られるのは「新生やまだ商店街」で、5月9日には10の商店と事業所の代表が参加し地鎮祭が行われました。集約し、商店街の敷地は町が買い取り、商店街の組合に貸し出されます。写真店、コンビニなどが並ぶ商店街は今年11月のオープンを目指します。(5/9 ニュース)



山田町の津波で被災した商店が集約され、商店街に生まれ変わることになりました。山田町中央町の国道沿いに造られるのは「新生やまだ商店街」で、5月9日には10の商店と事業所の代表が参加し地鎮祭が行われました。集約し、商店街の敷地は町が買い取り、商店街の組合に貸し出されます。写真店、コンビニなどが並ぶ商店街は今年11月のオープンを目指します。(5/9 ニュース)

宮古発

フルーツオーケストラ



フルーツの音色で安らぎを届けようと、宮古市内のフルーツ愛好家で作る「宮古笛の会」が震災後初のフルーツオーケストラのコンサートを

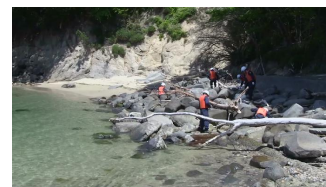
開きました。宮古笛の会は震災で一時活動を休止しましたが再開し子どもたちのレッスンや演奏を続けています。コンサートは津波被害から復旧した宮古市民文化会館で行われました。会員と沿岸の小中高生50人による6種類のフルーツを使ったオーケストラはなかなか聞く機会がないため、会場から大きな拍手が送られていました。

(5/10 ニュース)

陸前高田発

「月命日」集中搜索

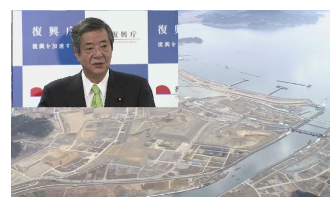
5月11日は東日本大震災の発生から4年2か月の月命日。陸前高田市と宮古市で行方不明者の集中搜索が行われました。陸前高田市



広田町では大船渡警察署の署員11人が大陽漁港周辺の海岸線を搜索し、岩の間を丁寧に調べたり、砂をかき分けたりして手がかりを探していました。県によりますと東日本大震災による県内の犠牲者は関連死も含めて5126人で、いまだ1129人の行方が分かっていません。(5/11 ニュースエコー)

東京発

被災地にも一部負担を



政府は、来年度以降の復興事業の財源の一部について被災自治体にも負担を求める方針を決めました。竹下復興大臣が発表したもので、

高台移転など柱となる事業以外の道路や港湾整備などについて「全国共通の課題への対応の性質を併せ持つ」として来年度から被災地にも一部負担を求める方針です。政府は6月末をめどに復興推進会議で来年度以降の復興支援の枠組みを決めるとしています。(5/12 ニュースエコー)

陸前高田発

さんりく元気ラジオ！

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週は、初登場の陸前高田災害FMの大久保暢子さんが、コミュニティハウス「朝日のあたる家」の熊谷さんをゲストに迎え、活動状況についてお話を伺いました。朝日のあたる家は「ともに生きる未来への談話室」として、陸前高田の高齢者、子ども、障害のある人の生活を支え、当たり前の地域生活を一緒に作り上げて行くための施設です。そこに「虹の架け橋」という木を使った遊具が完成しました。被災により遊ぶ場所が少なくなった子供たちへと、石巻の木工職人遠藤伸一さんが「陸前高田に遊ぶことの出来るモニュメントを」と、1ヶ月かけて制作したということです。(5/13)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibt.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122